

母乳育児支援ネットワーク (BSNJapan) 発行資料のごあんない

○ 世界母乳育児週間 2007年パンフレット 日本語版 生後1時間以内の 母乳の大切さ 150円 A4版 8ページ	○ 世界母乳育児週間 2006年パンフレット 日本語版 国際規準による監視 母乳育児を守って 25周年 150円 A4版 8ページ	○ 世界母乳育児週間 2005年パンフレット 日本語版 母乳育児と 家庭の食事 健康的で愛情たっぷり 150円 A4判 8ページ
○ 世界母乳育児週間 2004年パンフレット 日本語版 生後6ヶ月間は 母乳だけOK! 安全、安心、持続可能 なゴールドスタンダード 150円 A4判 8ページ	○ 世界母乳育児週間 2002年パンフレット 日本語版 母乳育児: お母さんと赤ちゃんの 健康のために 150円 A4判 6ページ	○ 入門WHOコード マンガでわかる 国際規準 400円 A5判 12ページ 母乳代用品の販売流通に関する国際規準の 内容・目的をマンガでわ かりやすく、具体的に解 説しています。

資料1部の場合は、送料十梱包料で100円です。各資料1部ずつの場合では、送料十梱包料200円になります。重さによって変わります。
総額1万円以上のお申し込みについては、日本国内の送料が無料になります。

翻訳・発行：母乳育児支援ネットワーク Breastfeeding Support Network of JAPAN (BSNJapan)
このパンフレットの翻訳と配布はWABAからの許可によって実現しました。
この日本語訳を複製する際には必ず事前に母乳育児支援ネットワークまでお問い合わせください。

問い合わせ先 info@bonyikuji.net/
<http://www.bonyikuji.net/> / FAX 03-5814-1306

〈理事〉柳澤美香(代表)、池田まこ、稻葉信子、小野みと、小竹広子、●瀬尾智子、●多田香苗、●円谷公美恵、長谷川万由美、引地千里、福原敦子、●本郷寛子、三浦孝子、村上麻里、●山崎陽美、涌谷桐子、渡辺和香(50音順) 〈WABA2008年パンフレット翻訳担当〉
BSNの理事会は、医師や助産師などの保健医療専門家のならず、社会福祉や法律の専門家、母乳育児支援団体の母親リーダーなどを含むメンバーで構成されており、母乳育児がしやすい社会を目指して活動を続けています。

母乳育児支援ネットワークは、WABA(世界母乳育児行動連盟)を日本で紹介するとともに、日本での母乳育児を支援する活動をおこなうことを目的として2000年に設立された非営利団体です。WABAの支援団体として登録されており、母乳育児支援に関心のある方の参加と協力を待ちしております。

入会希望の方は、次の事項を振込用紙の通信欄にご記入のうえ、年会費(3,000円)をご送金ください。お名前・ご住所・電話番号・FAX番号・E-mailアドレス・所属や母乳育児とのかかわりなど。

- 会員には、
- 入会時に刊行物を進呈します。
- 毎年のパンフレット日本語訳を送付します。
- 資料購入の際の割引制度があります。
- 会員向けメーリングリストに登録できます。

送金先:郵便振替口座 00110-2-611471
加入者名 母乳育児支援ネットワーク

Acknowledgements

このパンフレットは、14カ国から集った、母乳育児支援の重要性と力を確信している人々の協力によって結実したもの。

Coordinators: Rebecca Magalhaes and Paulina Smith. Writers: Rebecca Magalhaes, Melissa Vickers, Virginia Thorley, Miriam Labbok, Jennifer Yourkavitch, Dr. Prashant Gangal, Chris Mulford, Cindy Garrison. Contributors: Rae Davies, Mary Hurt, Rukhsana Haider, Luann Martin, Beth Styer. Reviewers: Judi McNulty, Jennifer Hicks, Linda Parry. Editors: Judy Torgus, Melissa Vickers, Rebecca Magalhaes, Paulina Smith. WABA Review Panel: Michael Latham, Sallie Page-Goetz, Hiroko Hongo, Louise James, Qamar Naseem, Dr. Raj Anand, Veronica Valdes, Maryanne Stone-Jimenez, Pushpa Panadam, National Coordinator/BFH/Nigeria, James Achanyi-Fontem, Els Flies, Chris Mulford, Felicity Savage and Julianna Lim Abdullah. Production: Susan Siew, Julianna Lim Abdullah, Cheah Ling Ling and Adrian Cheah.

このプロジェクトはオランダ外務省(DGIS)とスウェーデン国際開発庁(SIDA)の資金提供を受けています。



世界母乳育児行動連盟(WABA)は、母乳育児を保護・推進・支援する個人と組織の世界的なネットワークです。WABAの活動は、「イノチエンティ宣言」、「すばらしい未来を作り出すための10のリンク(連結)」、WHO/UNICEFの「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」に基づいています。中心となる仲間は、乳児用食品国際行動ネットワーク(IBFAN)、ラーニング・リーグ・インターナショナル(LLNI)、国際ラクテーション・コンサルタント協会(ILCA)、ウェル・スタート・インターナショナル(Wellstart International)、母乳育児医学アカデミー(ABM)です。WABAは、国連児童基金(UNICEF)の諮問資格を有し、また国連経済社会理事会(ECOSOC)の特殊協議資格を持つNGOです。

WABAはいかなる形でも、母乳代用品、関連する器具や母乳育児中の母親に対する商業的な食品、商業的な補完食(離乳食)を生産、販売流通する企業からの資金援助や寄贈はお断りしています。WABAは世界母乳週間の参加者全員が、この倫理上の立場に従い、これに敬意を払ってくださるようお願いしています。

翻訳発行 2008年7月
定価 ¥150(特別価格)

お母さんへの支援： 金メダル「ゴールド・スタンダード」を目指して



だれもが 金メダリスト!



ミシェルは40歳。トライアスロンへの挑戦を計画していました。
だから、息子のジャックのおっぱいをやめる必要があると思っていたのです。
けれども、バースセンターの支援グループの手助けによって、授乳を続けながら、
二度のトライアスロンを完走することができました。(アメリカ)

WABA2008

お母さんへの支援とは「より満足のいく母乳育児ができるように、
お母さんに差し伸べられるあらゆる支援」を指します。

世界母乳育児行動連盟(WABA) 母乳育児における世界規模の母親支援運動(GIMS)2007

2 008年世界母乳週間(8月1~7日)では、オリンピック(8月8~24日)に寄せて、乳児の栄養法の「ゴールド・スタンダード」、つまり「生後半年間は赤ちゃんを母乳だけで育て、その後も2年かそれ以上、適切な補完食(訳注:いわゆる離乳食)と並行して母乳育児を継続する」という最高の「スタンダード」を達成しようと努力しているお母さんたちへの、より厚い支援を呼びかけます。

**お母さんが、わが子に人生の最高のスタートを
切らせてあげられるように、支援しましょう!**
母乳育児では、だれもが金メダリスト!

目標

- 母乳で育てるお母さんを支援する必要性と重要性を啓発すること。
- 母乳で育てるお母さんの支援についての最新情報を広めること。
- あらゆる「支援の輪」において、お母さんを支援するのに最適な状況を整えるよう働きかけること。

お母さんが必要とし、受ける権利がある支援

- 自分の身になって話を聞いてもらうこと
- 基本的かつ正確で、タイムリーな情報
- 熟練した、実際に役立つ援助
- 助まし

お母さんへの支援:必要性

オリンピック選手は競技で力を發揮するために、家族、友人、地域、スポンサーからの支援を必要とします。同じように、お母さんも母乳育児をするうえで支援が必要です。オリンピック選手も、母乳で赤ちゃんを育てているお母さんも、さまざまな難関に直面するのですから。

母乳で育てているお母さんにとって、誤った情報に振り回されること、家庭の外で働きながらも母乳育児を続けること、緊急時でも適切に対処すること、そして何よりも、赤ちゃんを母乳で育てる自分の能力に対する自信のなさを克服することは、乗り越えなければならない壁です。自分を信じることは、オリンピック選手にとっても、成功の鍵を握る要素となります。

お母さんに差し伸べられる支援は、保健医療の専門家のもとを訪ねるような改まった形もあれば、ほかのお母さんから「それでいいのよ」とほほえみかけられることまで、さまざまです。支援を提供する源となるのは専門家からそうでない立場まで多様なのです。保健医療専門家や、病院・産科施設のスタッフと運営方針から、*ドウーラや助産師、ラクテーション・コンサルタント、訓練を受けた*ピアカウンセラー(母親カウンセラー)、母親によるサポートグループ、友人、家族まで含まれます。

【訳注1】家族や親族以外で、産前・分娩中・産後の母親を心身ともに継続して支援し、情報を提供する女性のこと。

【訳注2】ラレーチ・リーグのリーダーのように母乳育児の経験のあるカウンセラーのこと。



お母さんへの支援:科学的に証明されているその効果

最新のコクラン・レビューでは、14カ国からの34の研究を分析し、(完全に母乳だけで育てた場合も、混合栄養で育てた場合も合わせて)少しでも母乳を与え続けた期間、および完全に母乳だけで育てた期間の2つの場合に分けて、母乳育児の継続に及ぼす影響について評価しています。解析の結果、専門家による支援がそうでないかを問わず、そのとき分析されたあらゆる形態の支援が、混合栄養も含めた母乳育児期間を有意に延長することが明らかになりました。しかも、母乳だけで育てる期間に関しては、さらに大きな延長効果があることがわかったのです。¹ WHO(世界保健機関)とUNICEF(国際連合児童基金)がおこなった病院スタッフへの研修により、赤ちゃんを母乳だけで育てる期間は有意に延びました。

WHOによる「開発途上国における地域に根ざした母乳育児の推進・支援策」²は、母親支援の科学的根拠についてのいくつかの研究を引き合いに出しています。Sikorskiらは、10カ国における20の研究³を取りあげ、母乳育児を支援することが混合栄養を含めた母乳育児に有意によい影響を及ぼすこと、さらにその影響は、母乳だけで育てることに関して最大の効果があることを明らかにしました。

レイ・カウンセラー（訳注：専門家ではないが、一定の研修を受けた人）は母乳だけで育てる期間を延ばすのに最も効果的であり、専門的なカウンセラー（訳注：母乳育児の専門家などの保健医療従事者）は混合栄養も含めた母乳育児の期間を延ばすのに最も効果的であることがわかりました。

LINKAGESプロジェクトの報告書⁴には、病院での業務のありかたが「母乳だけで育てる率の向上」に及ぼす影響についての無数の研究が引用されています。

- カウンセリングと、母乳育児を支援するような退院時のおみやげセット
- 母乳育児援助における病院スタッフの研修
- 家庭訪問

もしも過去に、母乳で育てようとしている女性や、すでに母乳で育てているお母さんを支援するために、なんらかの行動をおこしたら、あなたには金メダルを受け取る資格があります。

お母さんの母乳育児を支援する

赤ちゃんというのはおっぱいを飲むように生まれついているのです。母乳育児は、あらゆる発達領域において、生命にとって可能な限り最善のスタートを与えるものです。工業国（いわゆる先進国）においてすら、母乳で育てないことと、赤ちゃんの生存や健康への危険の増大には関係があるとされています。

つまり、人工栄養は赤ちゃんの死亡率の上昇と関係があります。早期に母乳育児を開始し、母乳以外のものを一切与えないで赤ちゃんを育てるによって、100万人以上の赤ちゃんを救うことができます。⁵ 母乳だけで育てられた子どもに比べ、人工乳を与えられて育った子どもは理想的な発達をとげているとはいません。そうした子どもはあるべき姿に比べれば、健康状態が悪く、死亡率が高く、知能指数が低いともいえるのです。

また、赤ちゃんが母乳で育てられることは、お母さんや地域のためにもなります。乳ガンは母乳育児の経験がない人、あってもその期間が短い人によく

表1 母乳で育てない場合に、子ども、母親、地域、保健医療システムに及ぼす影響

母乳で育てない場合に、乳幼児に増大するリスク	母乳で育てない場合に、お母さんが比較的よく経験すること	母乳率が低いことによって、地域や保健医療システムが受ける影響
◆ 死亡率	◆ 乳ガンと卵巣ガン	◆ 感染症、肥満、下痢、そのほかの慢性的な疾患を治療する経費の増加
◆ 呼吸器系の感染	◆ 2型糖尿病	◆ 子どもが病気にかかるたびに、お母さんが欠勤することによる職場での損害の増加
◆ 下痢そのほかの感染症	◆ 月経と受胎能力の再開が早くなること	◆ 人工乳の缶や容器の廃棄に伴う埋め立てによるごみ処理という、環境へのマイナスの影響
◆ 肥満	◆ 妊娠と妊娠の間隔が短くなること	◆ 母乳代用品（人工乳）による多くの経済的負担
◆ 糖尿病	◆ 人工乳の調合や哺乳びんの洗浄に伴う不便さ	
◆ ゼンそくと喘鳴	◆ 人工乳の購入や、湯をわかしたりするための光熱費に伴う経済的負担	
◆ 小児ガン		
◆ 低い知能指数		
◆ 発達異常		

見られます。母乳育児をしないお母さんは月経が再開するのが早く、このことが間隔の短い妊娠や、お母さんと赤ちゃんの健康上の問題の増加につながります。赤ちゃんを母乳だけで育てることは、家族、地域、保健医療システム、そして環境にとっても、経済的な負担の軽減になるのです。

母乳育児支援の大切さ

母乳育児では、だれもが金メダリスト！

母乳育児は、乳児の栄養法の「ゴールド・スタンダード」（最高の水準）と称されてきましたし、それは当然のことでもあります。「ゴールド（金）」は、多くの文化において貴重なものとみなされ、価値を認められています。本物の金の代わりに、メキシコのまがい物を与えられたら、あなたはどんなふうに感じるでしょう。人工的な「製品」で母乳を代用するのは、これと同じことなのです。

「五輪」は、オリンピック、そして選手どうし、国どうしの国境を越えたネットワークの象徴です。

2008年世界母乳育児週間では、この「5つの輪」が、母乳育児をしている女性のよりどころとなる、援助や励ましの5つの支援形態を表します。「支援の輪」は中央の輪を中心として、お互いに重なり合い、影響し合い、強め合います。



中央に位置する女性の「輪」

「女性の輪は、全体で仲間となり、経験を積むことを通じて、叡智をもたらすものです」

Maryanne Stone-Jimenez（カナダ）

女性は多方面からの支援をただ受けるだけではありません。自分たちから積極的に支援を確保し、また支援する側にもなります。どの「輪」においても、女性が主役なのです。周囲の輪のゆるぎない支援が中心の力を強め、その力がまた、外側の支援の輪へと広がっていきます。女性が設立し、守り続けている、世界中の「お母さんからお母さんへ」の支援組織の強固なネットワークは、このコンセプトを生き生きと具現しています。

歴史の流れを経て、女性は互いに手を携えること、つまり新たなスキルを習得し、よいときを分かち合い、苦しいときには頼り合うことの大切さを学びました。伝統的な環境においては、このネットワークは、母親、祖母、姉妹、おばなど、身近で頼りやすい近親者によって構成されました。

今や、女性の役割はもっと大きく広がり、家庭や家族の範囲にはとどまなくなっています。このような役割の広がりは、手を携え合うことの必要性を高めます。悲しいかな、今日の多くの女性は頼むべき支援ネットワークを持っています。近親者が常に地理的に近くにいるとは限らないため、家族以外の人に頼り、また使える場合には電話やインターネットなどの文明の利器に頼ります。すべての「輪」が盤石であり、一丸となってお母さんたちの母乳育児を支援すれば、未来の世代にとって真に力強い結果が得られるでしょう。

目指すのは、中心の輪にいるお母さんがどの方向を向いたときにも、母乳育児経験に対する肯定的で共感に満ちた支援が受けられることです。

「お母さんを効果的に支援するうえで最もよい介入は、お母さんどうしの小さなサポートグループを作ることです。

これには、母乳育児文化を取り戻す力があります」

Maria Ines Fernandez（フィリピン）



6人の子どもの母、アンジェリーナは今もレナルドに授乳中で、ほかのお母さんたちと学び合い、語り合いで集いを心待ちにしています。（パラグアイ）

家族と社会のネットワークという「輪」

すべての女性は家族や親族、友人、隣人との付き合いを持ち、それ以外にも地域内での人間関係を育みます。この親せき付き合いや社交関係という輪は、個々の女性やその文化、生活環境、社会的地位や経済水準、その活動範囲などによって異なります。

家族や親族は、赤ちゃんの父親（夫であれ、パートナーであれ、恋人であれ、それ以外の大好きな人物であれ）を筆頭に、お母さんにとって最も近

く、継続的な支援ネットワークを構成します。また、ここにはお母さんの母親、姉妹、それ以外の近親者が含まれるかもしれません。

支援は関係の近い家族や親族にとどまらず、友人や隣人、地域でお母さんが出会う人々にも広がります。お母さんが属する社会が母乳育児を「あたりまえ」の行為だとみなしていない場合、そうした中で、安心して母乳育児をすることは難しいかもしれません。母乳育児支援には、お母さんと赤ちゃんが可能な限りどんなときでも一緒にいられるよう、援助したり励ましたりすることも含まれます。

また、女性は自分が属する文化や社会で流布しているメディアを通じて、読んだり、見たり聞いたりする内容によって、肯定的にも否定的にも影響を受けます。人ととの、強い社会ネットワークの輪は、必要とされる場面で支援することによって、否定的な影響を打ち消すのに役立ちます。

「私たちは、母乳育児をしている母と子のニーズが、貧富・地域差や言語の違いを超えて、地球のいたるところで理解されるようになるまで、一丸となって声をあげていく必要があります」

Pushpa Panadam（パラグアイ）



リーナは6年前に実の母親を亡くしており、母親から直接の支援を受けることはできませんでした。けれども、母の友人たちが差し伸べてくれた知識と支援によって、現在8ヶ月になるサリットへの授乳を楽しんでいます。（イスラエル）



「お母さんは、母乳育児上の問題を抱えて連絡をしてくるとき、

今、その瞬間に援助を求めています。

その求めに、待ったはかけられないのです！」

Rebecca Magalhaes (アメリカ)



「私は、保健医療従事者が一人残らず母乳育児について学び、
どのお母さんも母乳育児をするための支援を
受けられる世界を夢見ています」

Felicity Savage (イギリス)

政府と立法という「輪」

政策と立法は、女性を人生の多くの局面において支援するうえで、不可欠なもの。政府は立法し、論争の裁定をおこない、行政上の決定を公布する権限を備えています。法律や公的な政策は、母乳育児をするお母さんを支援するために必要です。各国政府が「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準」(以下、「国際規準」と)、その後の世界保健総会の関連決議を実施すれば、満足のいく母乳育児が、商業的な影響によって損なわれることがなくなります。

WHOとUNICEFは4つの分野で、母乳育児がうまくいくための支援を提唱してきました。

◆ 保健医療システムは女性のニーズを中心としたケアをしたり、母と子のカップルに温かく人間的な治療をしたり、母と子に影響を及ぼす政策に注意を払ったりすることを通じて、女性を支援することができます。

◆ 保健医療従事者への教育により、熟練し知識を備えた実践、そして人道的で文化に配慮した実践を通じて、直接、女性を支援することができます。

◆ 「国際規準」とその後の世界保健総会の関連決議は、誤った、人を惑わせるマーケティングを禁じることによって、女性を支援します。

◆ 地域の活性化、特に「お母さんからお母さんへの支援」や「地域の仲間どうしの支え合い」を活性化することは、女性に力と情報を与えます。

「国際規準」についての最新報告は、
<http://www.babymilkaction.org/shop/publications01.html#btr07> で見ることができます。

「母乳育児に対する伝統的な支援の形は、
グローバル化や近代化や現代化の勢力によって
損なわれて今日に至り、今現在も脅かされ続けています」
世界規模の母親支援運動(GIMS)による声明 2007年



クリスタルは医師や同僚や社会からの、母乳育児に対する数々の障壁に直面し、自分の国が全体的な意識改革を必要としていることに気がつきました。そこで、母乳育児を推進する記事を書き、自分の住む町で母乳育児のサポートグループを率い、母乳育児率を分析する政府主導の研究事業に参加しました。
(台湾)

職場と雇用という「輪」

「母親は皆、働く女性である」。このスローガンはお母さんの生活の実態をよく言い表しています。母親であるということはすなわち、子どもの世話をし、幸福にする責任があるということなのですから。

この仕事には時間とエネルギー、それから全身全霊で子どもに心を傾ける必要があります。何しろ、母乳だけで育てられている月齢6ヶ月未満の赤ちゃんは、昼夜の別なく、平均して24時間に11回母乳を飲むのですから。⁷ とはいっても、母乳育児は効率がよい栄養法でもあります。母乳の生産は1日24時間、お母さんが働いていてもくつろいでいても、それどころか寝ている間ですら、止まることはあります。

お母さんが最も母乳を与えやすいのは、ストレスの少ない環境にあるときです。家庭で、そして仕事のうえでの労働量を一時的に減らし、母乳育児にあてられる時間とエネルギーを作り出すことは、お母さんたちのためにあります。

母乳育児中の働く女性を支援する3つの要素

- 勤務時間内に、母乳を直接飲ませたり、搾乳したりするための時間
- そのための、清潔でストレスを感じない、利用しやすい場所
- 母乳育児が何よりも優先するという職場の一致した姿勢

就労継続の保証、有給の産後休業、有給の授乳休憩、職場あるいは職場近くの保育施設、妊娠・出産を理由とする不利益な扱いからの保護、選択肢としてパートタイムを含む柔軟な勤務体制は、支援の枠組みとなります。このような枠組みの内部では、働くお母さんの「チーム」、すなわち母乳を飲んで育つ赤ちゃんから、職場における時間や空間を預かる上司にいたるまで、皆がお母さんを支援していることになります。そうした人々の前向きな姿勢により、お母さんは励まされ、乳児の栄養法の「ゴールド・スタンダード」(最高の水準)である母乳育児へと到達できるのです。



ウトウカーシュは女優なので長い時間、仕事に拘束されます。けれども、娘のガーナに飲ませるための母乳は、手でしづれば、十分にまかなえることがわかりました。そこで美容師に手伝ってもらって木陰で重い衣装を脱ぎ、搾乳することで、赤ちゃんと離れていたながら母乳を飲ませることができたのです。

(インド)

危機的状況や緊急事態への対応という「輪」

自分ではどうすることもできない状態によって緊急状態に置かれたとき、お母さんはわが子に対し、ただ栄養を満たすだけではなく、命を守る責任に迫られます。安全な住まい、食べ物、衣服を手に入れなければならず、その一方では、近親者や支援機関、法的なネットワーク、保健医療従事者などとの連絡に追われるかもしれません。

自然災害のさなか、あるいは戦火や紛争にさらされる地域では、家族は住み慣れた家や土地を追われ、果てははじみのない場所に落ち着くことになります。子どもや家族の援助をする公的機関や社会福祉団体は、どんなお母さんでも必要とするもの、つまり十分な食べ物や水や衣服を提供することによって、母乳育児中のお母さんを支援することができます。このような状況下では、母乳が、赤ちゃんのために入手できる唯一の安全な食べ物かもしれません。

インターネットで、緊急救援において、母乳育児中の女性と子どもの支援に携わる人のための活動の手引きをダウンロードすることができます。

(www.ennonline.net)

邦訳 http://www.jalc-net.jp/dl/OpsG_Japanese_Screen.pdf

(離婚や養育権争いの裁判など)家庭の危機にさらされたお母さんにも、支援システムが必要です。赤ちゃんにはお母さんが必要であること、母乳代用品を赤ちゃんにあてがうと危険であることを裏づける情報や証拠を提供する印刷物や事情に通じた人が見つかるはずです。

健康上の危機に直面している家族には特殊なニーズがあります。母乳育児に関する病院の方針については、院内の*母乳育児支援センターにあたりましょう。乳幼児の入院に際する親の付き添いについて、母親が入院する場合に乳幼児が面会する権利について、そして母親がしばらくのあいだ直接母乳を与えることができない場合の、搾乳の援助についての情報を得ることができます。

[訳注]日本では、母乳育児支援センターは一般的ではないが、院内に「母乳外来」や「母乳相談室」を設けているところもある。

HIVあるいはAIDSという状況にある母親への母乳育児支援は、お母さんにとっても、援助する側にとっても難しいものです。世界的な保健基準では、HIVに感染した女性に対し、生後6ヶ月の間、「置換栄養法」が受け入れられ実行できる環境にあり、購入できる価格であって持続可能であり、しかも安全であるという条件(これをAFASSといいます)がそろわない限りは、赤ちゃんを母乳だけで育てるなどを推奨しています。⁸

[訳注]置換栄養法とは、乳幼児に母乳を一切与えず、母乳に代えて、必要なすべての栄養が摂取できる飲食物を与えることをいう。HIV陽性の母親から、母乳を介してHIVに感染する危険のある乳幼児に対し、その危険を回避するために、場合によって選択される。

「お母さんが危機的状況や緊急事態に苦しんでいるとき、組織や政府、そして一人ひとりの個人が、お母さんを支援することができます。そのとき、その努力に対する金メダルを獲得できるのです」

お母さんはだれしも、乗り越えなければならない障壁に直面し、支援を必要とするものですが、経済的に恵まれない状況にあるお母さんは、それ以上にさまざまな困難にぶつかるものです。

教育、資源、社会的・経済的基盤、基本的な生活上設備の欠如、保健医療が存在しないことや利用できること、食糧不足、母親のサポートグループの不在、乳房や母乳育児について口に出して言うのをばかることなどは、すべて逆風になります。このような状況は、住んでいるのが開発途上国であろうと、工業国(いわゆる先進国)であろうと存在します。母から子へと母乳育児が受け継がれている社会においても、商業的な宣伝行為などの母乳育児を損なう勢力から、女性を保護する必要があります。

「赤ちゃんを母乳で育てるということは、地域全体にかかる慶事です。

満足のいく母乳育児を実現させるためには、だれにでも果たすべき役割があるのですから。

母乳育児にやさしい環境のためには、あらゆる場に支援者が必要です」

Negeya Sadig (スudan)



ハリケーンがアメリカのメキシコ湾岸諸州を襲ったとき、ある母乳育児のカウンセラーは広く一般に提供するサービスについての「お知らせ」の作成に尽力し、母乳育児の援助と情報を必要としている、家を追われたお母さんたちに必要不可欠な情報と連絡先電話番号を伝えました。

(アメリカ)

[訳注]災害における日本での活動を紹介します。
1995年の阪神淡路大震災では、ラ・レーチェ・リーグ日本のリーダーが母乳育児相談を受けました。また、2004年の新潟中越地震と台風23号による兵庫県水害では、多くの個人・組織がさまざまな支援をしました。これをきっかけに、ラ・レーチェ・リーグ日本、日本ラクテーション・コンサルタント協会(JALC)、母乳育児支援ネットワーク(BSNJapan)の3団体が「災害時の母と子の育児支援 共同特別委員会」を発足したのです。被災したお母さん、援助者、メディア関係者それぞれに向けた文書の発行や無料相談窓口の設置、冊子『災害時の母乳育児相談～援助者のための手引き』の発行など、2008年現在も継続して活動しています。
<http://www.bonyuikuji.net/hisai.html>
[http://www.bonyuikuji.net/i/ \(携帯サイト\)](http://www.bonyuikuji.net/i/)

また、BSNJapanでは災害時の乳幼児への支援についてのセミナーも開催しています。詳しくは<http://www.bonyuikuji.net/>まで。

どの国も、国で最もすぐれた運動選手をせっせとオリンピックに送り出します。だとしたら、健康的な運動選手は、健康的な人生のスタートからこそ生まれるのだと肝に銘じることが大切でしょう。最も理想的な成長と発達には、最も理想的な乳幼児期の栄養が必要不可欠だということには、疑問の余地がないのですから。

母乳育児では、だれもが金メダリスト!

支援の輪を広げるための行動

中心に位置する女性という「輪」

- ◆ 母乳育児について学びましょう。
- ◆ 支援を求め、ほかの人への支援の手を差し伸べましょう。
- ◆ 妊娠・授乳期間に特有の健康面、栄養面のニーズに配慮しましょう。
- ◆ 楽しい母乳育児をした経験者から話を聞きましょう。
- ◆ お母さんどうしの、あるいはそのほかのサポートグループに参加しましょう。

家族と社会的なネットワークという「輪」

- ◆ 母乳育児をするお母さんに、実際に役立つ支援をしましょう。例えば、食事の支度をしたり、年長の子どもの世話をしたり、用事を手伝ったりしましょう。
- ◆ 母乳育児について学び、お母さんの困難を未然に防いだり、早期に見つけて対処したりできるようにしましょう。
- ◆ わが子に母乳を与える、お母さんの能力を信じましょう。
- ◆ お母さんがサポートグループの集いやラクテーション・コンサルタント(母乳相談員)のもとに足を運ぶための交通手段を用意しましょう。
- ◆ 母乳育児を推奨し、誤った情報を正すよう、メディアに手紙を書きましょう。

保健医療という「輪」

- ◆ 産科施設を基盤とするお母さんのサポートグループをスタートさせる方法を学びましょう。
- ◆ ピアカウンセラーや母乳育児支援団体の認定リーダーになるための情報を集めたり、そのほかの母乳育児支援セミナーなどの講座を受けて、母乳育児の支援やスキルを学びましょう。
- ◆ 医療や政治の分野で指導的立場にある人に積極的に働きかけ、すべての施設における「赤ちゃんにやさしい病院運動(BFHI)」への支持を求めるましょう。
- ◆ 地域で適切な援助ができる母乳育児の専門家を見つけ出し、連絡を取る最善の方法を探りましょう。
- ◆ すべての保健医療従事者の養成に、母乳育児のカウンセリングと支援のスキルを盛り込みましょう。

政府と立法という「輪」

- ◆ 口頭で、あるいは書面で、政策立法者に対し、母乳育児支援の重要性について訴えましょう。
- ◆ WHOとUNICEFの「国際規準」の条項の法制化を求める活動に取り組みましょう。
- ◆ 母乳育児を学ぶ地域の教室や支援ネットワークに参加し、その活動を積極的に支援しましょう。

- ◆ 病院や産科施設の責任者に、「赤ちゃんにやさしい病院運動(BFHI)」についての情報を送りましょう。
- ◆ 母乳育児中のお母さんを支援する職場に、地方の税制優遇措置を与えるよう署名を集め陳情しましょう。

職場と雇用という「輪」

- ◆ 雇用主である場合、母乳育児中の女性が搾乳したり、赤ちゃんに授乳したりできる適切な場所を常設するようにしましょう。
- ◆ 政府が把握できていないような小さな職場で働くお母さんも支援が受けられるように、地域の団体と協力しましょう。
- ◆ 母乳で育てられている赤ちゃんを預かる立場にある人は、母乳育児の継続のために何が必要なのかを学びましょう。
- ◆ 家族は、母乳育児をしながら働く女性の家事負担を軽減するようになります。
- ◆ 立法者に手紙を書き、有給の産休の法制化、産休の延長、お母さんにやさしい職場を支援する法律への支持を訴えましょう。

母乳育児を支援する五大原則

- 一人ひとりのお母さんと赤ちゃんの状況は、それぞれ違っていることを肝に銘じましょう。母乳育児をしているお母さんのニーズを敏感に察知しましょう。
- 共感を込めて耳を傾け、お母さんの心配ごとをくみとるようにしましょう。状況をはっきり理解するための質問以外の言葉は差し控え、お母さんが自分で選択するために必要な情報だけを提供するようにしましょう。
- お父さんやそれ以外の家族が、お母さんの母乳育児を支援できるよう、必ず十分な知識を得られるようにしましょう。
- 母乳で育てるという選択肢がすべての女性に与えられ、実際に母乳で育てられるような環境づくりを、政府、職場、社会に求め続けましょう。
- 支援者として、お母さんには母乳で赤ちゃんを育てる力があることを信じ、そのことをお母さん本人に伝えましょう。その一方で、お母さんがより特別な援助を必要としているときには、支援者がそれに気がつくことも大切です。

2005年のイノチエンティ宣言は、すべての関係者に向かって「女性をエンパワードし、自分の権利行使できるようにしましょう。また、女性を母親としてエンパワードし、ほかの女性にも母乳育児に関する情報や支援を提供できるようにしましょう」と呼びかけています。



「世界を、お母さんと赤ちゃんにとってよりよい母乳育児ができる場所にするための行動は、どんなことであろうと、だれがすることであろうと、すばらしい恩恵をもたらしています。
一見小さいことであっても、まちがいなく、大きな目標に向けての積み重ねなのですから」

Ted Greiner (アメリカ)

Photo credits:

Copyright 2008 WABA. Photo's 1, 2, 3 and 4 are winners of the World Breastfeeding Week 2008 Photo Contest. All winning entries from the Photo Contest will appear in the WBW 2008 Posters, Banners and can be viewed at the WBW website www.worldbreastfeedingweek.org.

情報源

1. Britton, C. et al. Support for breastfeeding mothers. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2007, Issue 1.
2. World Health Organization and LINKAGES. *Community-based Strategies for Breastfeeding Promotion and Support in Developing Countries*. WHO: 2003
3. Sikorski, J. et al. Support for breastfeeding mothers. *Cochrane Database of Systematic Reviews*, 2002.
4. Green, C.P. *Improving Breastfeeding Behaviors: Evidence from Two Decades of Intervention Research*. AED, The LINKAGES Project: 1999.
5. WABA 2007 WBW Action Folder
6. Pisacane, A. et al. A Controlled Trial of the Father's Role in Breastfeeding Promotion. *Pediatrics* 2005; 116(4): e494-e498.
7. Hönell A et al(1999) Breastfeeding patterns in exclusively breastfed infants: a longitudinal prospective study in Uppsala, Sweden. *Acta Paediatrica* 88:203-11.
8. WHO 2007, HIV and Infant feeding: new evidence and programmatic experience: report of a technical consultation held on behalf of the Inter-agency Task Team (IATT) on Prevention of HIV Infections in Pregnant Women, Mothers and their infants, Geneva, Switzerland, 25-27 October 2006.”

WBW調達&配付センター

OVERALL COORDINATION

WABA Secretariat

P O Box 1200
10850 Penang, Malaysia
Fax: 60-4-657 2655
waba@streamyx.com
www.waba.org.my
www.worldbreastfeedingweek.org

Aktionsgruppe

Babynahrung Ev (AGB)
Untere Maschstrasse 21
D-37073 Gottingen, Germany
Fax: 49-551-531 035
info@babynahrung.org

LATIN AMERICA

CEFEMINA
Apartado 5355, 1000 San Jose Costa Rica
Fax: 506-224 3986
cefemina@racsa.co.cr

AFRICA

IBFAN Africa
P O Box 781, Mbabane Swaziland
Fax: 268-40 40546
ibfanswd@realnet.co.sz

CEPREN

Av. Pardo, 1335 Of.301-302
Lima-18 Peru
Fax: 51-1 241 6205
cepren@amauta.rcp.net.pe

Origem Group

Rua da Uniao, 253, Boa Vista Recife, Pernambuco CEP 50050-010
Brazil
Fax: 55-81-32314325
juliana@origem.org
www.aleitamenta.org.br

ASIA

WABA Secretariat
(See address above)

South Asia

Breastfeeding Promotion Network of India (BPNI)
BP-33, Pitampura
Delhi 110 034, India
Fax: 91-11-2734 3606
bpni.india@gmail.com

LLL International
957 N. Plum Grove Road Schaumburg, IL 60173-4808, USA
Fax: 847-969 0460
llhq@lli.org • www.llli.org

EUROPE

Baby Milk Action

34 Trumpington Street Cambridge CB2 1QY, UK
Fax: 44-1223-464 417
info@babymilkaction.org

INFACt Canada

6, Trinity Square, Toronto ON M5G 1B1, Canada
Fax: 1-416-591 9355
info@infactcanada.ca
www.infactcanada.ca

PACIFIC

Australian Breastfeeding Association (ABA)
P O Box 4000, Glen Iris VIC 3146, Australia
Fax: 61-3-9885 0866
info@breastfeeding.asn.au
www.breastfeeding.asn.au

GIFA

Avenue de la Paix 11
1202 Geneva, Switzerland
Fax: 41-22-798 4443
info@gifa.org

Development Officer PINDA

c/o Christine Quested Nutrition Centre Health Department Private Mail Bag Apia, Western Samoa Fax: 685-218 70
brenda@lesamoa.net